

奈弓連だより

通巻 234号

令和3年8月号
発行 奈良県弓道連盟
会長 西中正
編集担当 松澤和実 中西省五
連絡先: henshu@narakyudo.jp

第72回奈良県中学校総合体育大会弓道の部

団体 男子: 橿原

女子: 天理南 A

個人 男子: 車谷 僚大選手(橿原)

女子: 坂本 優奈選手(橿原)が優勝

7月21日、22日の2日間、標題の大会が橿原公苑弓道場で開催されました。令和3年度の3年生最後の県の大会となりました。団体で優勝すると、全国大会の出場権を得る試合です。(今年の全国大会は団体戦のみのリモート大会になりました。)1日目は個人戦、2日目は団体戦を実施しました。個人戦で決勝に進出したのは男子が3名、女子も3名でした。また、2日目の団体戦では、男女各13チームの参加がありました。団体の予選で上位4チームを選び、決勝ではその4チームが総当たりのリーグ戦を行いました、今大会の参加者は男子67名、女子95名でした。結果は以下の通りです。

個人戦

男子

- | | |
|-----|-------------|
| 第1位 | 車谷 僚大 (橿原) |
| 第2位 | 山上 真麒人 (橿原) |
| 第3位 | 郡山 顕新 (香芝) |

女子

- | |
|------------|
| 坂本 優奈 (橿原) |
| 北村 優依 (八木) |
| 涌井 陽菜 (青翔) |



個人戦入賞者左から

男子1位~3位、女子1位~3位

団体戦

男子

- | | |
|-----|---------------------|
| 第1位 | 橿原 A (伊東 花瀬 片石 吉村) |
| 第2位 | 香芝 A (郡山 吉田 竹田 佐々木) |
| 第3位 | 青翔 B (松吉 竹村 遠藤) |

昇格おめでとうございます

【近畿第2地区】特別臨時中央審査会(8月8日開催)において次の方々が昇格されました。

錬士合格者

釜谷 和恵さん (郡山支部)

松井 優宜さん (郡山支部)

おめでとうございます。(事務局)



男子団体入賞者

前列1位、後列左から2位、3位

女子

- | | |
|-----|---------------------|
| 第1位 | 天理南 A (阪口 北野 松本 岡田) |
| 第2位 | 橿原 A (遊亀 中村 坂本 志方) |
| 第3位 | 香芝 A (高野 矢野 長谷川 勝村) |



女子団体入賞者

前列1位、後列左から2位、3位

(中体連 中前 芳一)

令和3年度 全日本弓道選手権大会 近畿予選会 予選2名通過、決勝で藤岡選手が9月の本戦へ

8月1日(日)兵庫県明石市の兵庫県立弓道場で、標記予選会が開催されました。

当日は天気も良く、朝からぐんぐん気温が上がり、海や川へ行きたくなるようなところ、各府県から例年より厳しくなった枠を潜り抜けて集まった、男女各12名による近畿代表枠を争う戦いが始まりました。

予選は一手2回を採点制で行い、4射2中以上の上位5名を選出、決勝は一手5回の的中制で上位2名が近畿代表枠を獲得する形です。

午前中の予選で2中以上の的中が出た東中と藤岡が、なんとか点数もクリアして決勝進出に。午後の決勝では藤岡がクリアして9月に行われる本戦に進むことになりました。

振り返ってみると、とにかく稽古不足で、最初の射をピークに右肩下がりの内容でしたが、的中に意識を持っていかず、「強い矢を出そう」と心掛けたのが良かったのか、弦音と矢勢はそこそこ出せたのではないかなと思います。

今年度はコロナ禍で、天皇盃・皇后盃の本戦は男女各20名の参加者で競うこととなります。近畿予選より更に厳しい戦いになると思いますが、本番まで、もっと強い矢を出せるよう稽古していきたいと思っています。



想いを込めて



(郡山支部 藤岡 順)

※藤岡選手一予選(採点制)1731点(1位)、決勝(的中制)10射7中(1位)で近畿予選を通過

橿原市弓道協会 夏の百射会開催 10時間をかけて矢数への挑戦

毎年矢数をかける事を目的としている百射会の夏大会を今年も7月25日に橿原公苑弓道場にて開催しました。

競技開始時点の参加人数は23名、コロナ禍で密を避けるため、当初から3人立2射場を予定していましたので、最初の20射は4立でのスタートとなりました。



■国体強化選手の合流

20射終了後小休止を取った後、8射を引いた時点で中絶、お昼休憩とし、午後1時からの再開時には、国体強化選手も交え、30名での再開となりました。

今回の大会では、密を避けるために3人立2射場を上限と設定しており、当初から時間的に100射完射は困難との想定と、30度を軽く超える暑さの中で熱中症を避けるため、休憩時間を多めに取り、51射目は15時のスタート、60射を引き終わったのが17時過ぎとなりました。

■80射完射に向けて

60射を終えた時点で、午前中に炎天下で遠的練習に励んだ強化選手メンバーを含め、半数近いメンバーが終了となり、最後の80射参加メンバーは13名(内、完射11名)の少人数となりました。

矢取り・看的・記録も参加選手で行うため、最後の20射は、贅沢にも3人立1射場で行われ、19時45分、最後の西尾選手の的中を以って無事80射完射となりました。

日頃の練習では1日10射程度という昨年の教室生も80射完射という未知の体験を楽しみ、途中参加の人、途中終了の人、休憩を挟んで再開した人も、皆が和気あいあいと楽しんだ会となりました。

10時間を超す長丁場の中、常にハイペースで的中する人、後半尻上がりに調子をあげる人、後半バテて調子を落とす人、中だるみの後復活を遂げる人など、年齢やレベルに応じた様々な的中風景が繰り広げられましたが、普段なかなかかけられない矢数をかけられた

事は、きっと今後の弓道人生にプラスに働くことと思います。



贅沢にも3人立1射場

■結果

- 優勝 原田 温美 (54 中)
- 2位 原田 祐介 (52 中)
- 3位 西尾 信行 (41 中)
- 4位 角田 圭一郎 (38 中)

(樫原市弓道協会 角田 圭一郎)

国体強化練習会

三重とこわか国体を目指して

今年の国体は三重県で開催されます。弓道競技は名張市で9/26～29。その本戦へ進むための近畿ブロック大会は8/21(土)に少年の部、8/22(日)に成年の部が吹田市で行われます。

近畿6府県の内、本大会に駒を進めることができるのは、得点上位の、少年が男女各2チーム、成年が男女各3チーム。新型コロナウイルス感染状況によって本大会がどのように開催されるか分からない状況ですが、強化メンバー一丸となって本大会への切符を勝ち取るべく、頑張っています。

近的は主に樫原公苑弓道場と、光陽中学校の弓道場にて、遠的は樫原公苑の庭球場、香久山の遠的場にて練習しています。遠的練習は、炎天下での練習になるため、テントは必須アイテムです。暑いです！「同じ釜



の飯を食う」と仲良くなれたりしますが、「同じ暑さを乗り越えた仲間」ですね。



青い空に囲まれて

土日が主な活動日で、熱中症に注意しながら技術とチームの団結力、そして競技力の向上を目指して頑張っています。そして樫原市弓道協会の「夏の百射会」に今年も参加させて頂きました！

強化選手以外の方々も連盟練習会等で一緒に近的・遠的の練習をして次の国体選手を目指してみませんか？

近畿ブロック大会への観覧は不可となっておりますが、選手への応援をよろしくお願ひします！



暑さに負けず真剣なまなざし



香具山遠的場にて 指導を受けながら

(強化部 長濱 正伸)

奈良県の支部、団体紹介

天理大学体育総部弓道部

主将 鍵谷悠喜

こんにちは。

天理大学体育総部弓道部主将を務めている天理大学三回生の鍵谷悠喜と申します。

本学は現在四回生 9 名三回生 6 名二回生 6 名一回生 1 名の計 22 名で活動しております。

また男子は関西 I 部リーグ、女子は II 部リーグに所属しております。

今年度はコロナの影響でスポーツ推薦が取れなかったことや、新入生の部活動オリエンテーションが無くなったため例年に比べ新入部員がかなり少なく、オンライン授業のため部活動勧誘のチャンスもないため非常に厳しい状況にあります。

本学は経験者、未経験問わず大募集しておりますので少しでもご興味をお持ちいただいた方は是非一度天理大学の弓道場にお越しいただくか、ホームページや Twitter のダイレクトメッセージをお送りいただけると幸いです。

またホームページや Twitter では日々の練習風景や試合結果の掲載も行っております。

練習は週 4 日で全体練習を行い、週に一度師範、コーチの方にお越しいただきご指導していただいております。楽しむときは全力で楽しみ、やらなければならない時は全力でやるメリハリを大切に活動しています。最近の戦績は全日本学生弓道遠的選手権男子優勝、関西学生弓道選手権大会男子団体ベスト 4、男子百射会優勝、関西学生弓道選手権大会女子団体優勝、住吉大社全国弓道遠的大会男子団体優勝、全日本学生弓道選手権女子団体優勝などです。

最後になりますが、コロナ渦において昨年は年度初めから新型コロナウイルスが蔓延したことによりインカレ団体予選以外の全ての試合が中止となってしまいました。幸いにもインカレ団体予選に出場することが出来ましたが、悔いの残る結果で終わりました。

残り少ない今年度の目標は多くの試合で結果残すことで最終的な目標はリーグ戦で勝つことです。

現在も昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響で活動の停止、大会の延期や中止の可能性が高いこと、

対面での練習試合、試合も禁止など、厳しい状況が続いておりますが限られた環境の中で残りの試合を大切に、個々が弓道という武道を重んじながら体配を大切に、的中率を高めるには何が必要かを考え、張り合いのある意識の高い集団を目標に活動していきます。

今後とも天理大学体育総部をよろしくお願い致します。

量る、測る、計る？



近的は、射位からの的まで何mでしょう？

全弓連の競技規則では 28m と定められています。では、なぜ 28m (十五間) に決まったのでしょうか。

もともとは戦術として、槍隊と弓隊が共に行動している、槍隊の後ろに弓隊が控えていました。槍隊は長いものが三間槍 (5.46m)。槍は前に突き出して三間、後ろに引き込んで三間、一人で六間の空間を守ることができます。槍が二人向かい合って戦うとき、六間×2=十二間、さらに間合いを三間取り十五間となり、その槍の間合いの外側から弓を引くため、十五間となり、それを基準として弓の稽古をしていたようです。

(昔の尺貫法で、「手先十五間」が基準となる。十五間とは、 $1.82\text{m} \times 15 \div 2 = 27.3\text{m}$ 、さらに押手先～体の中心までを約 3 尺 (0.9m) を足して約 28m。)

敵と戦うためのものではなく、「弓」と「自分」と「的」の三者が一体となり矢を放つまで、自分の中の精神的なものとの戦い、物事に動じない不動心と平常心、心の修練を重ねる弓。戦う弓も、儀式で祈りを捧げる弓もありますね。それぞれ技術の習得は大変難しく厳しいものですが、弓友とともに切磋琢磨する楽しさは同じなのではないでしょうか。

編 | 集 | 後 | 記

8 月も後半に差し掛かろうとしている中、猛暑の後の大雨による災害、新型コロナウイルスの感染者増加が世の中を騒がせています。そんな中、全日本弓道選手権大会に出場される藤岡先生をはじめ、三重国体出場に向けて汗を流す強化選手など、昨年はなかった話題が奈弓連だよりも増えてきました。昨年に出せなかった分の力も、今年の大会で出し切りたいと思います。みんなで応援しましょう！ (中西 省五)